

我が国全体を俯瞰した量子ビーム施設の在り方について 調査方法及び調査事項（案）

1. 調査方法

（事務局による調査）

- ・国内施設・設備の整備機関の書面調査、視察
- ・海外施設の動向に関する書面調査、研究者等からの情報提供 等

（委員会でのヒアリング）

- ・施設設置者（国研、大学、自治体）からの聴き取り
- ・アカデミア、産業界の施設利用ユーザーからの聴き取り 等

2. 調査事項

- ・施設の特長・成果
 - －施設設置の目的及びその背景、経緯、設置当時の具体的なニーズ
 - －得意とする研究開発領域、今後強みとしていく特長
 - －加速器、分光器、装置において特長のある研究が行われているか
 - －論文等の成果創出、成果展開等の状況
 - －運営費の確保、施設・設備の老朽化対策・更新計画
 - －共通基盤技術等の研究開発を自前で行っているか
 - －組織（自治体、大学等）からの支援状況
 - －利用者の内訳（産、学、官）
 - －施設・設備の共用もしくは共同利用・共同研究の状況、施設間の連携協力、拠点化・プラットフォーム形成の状況
- ・具体的な企業名等を含む（本格的な）産学連携の状況
 - －件数、規模
 - －産学連携の環境（コミュニティの規模、産学連携の支援の取組があるか、ユーザーニーズの把握方法）
 - －手法（取組）
- ・オープンデータ・オープンアクセスの取組状況について
 - －データベースの構築・共用方法
 - －SINET・スパコン等の活用状況
 - －データポリシーの策定状況
- ・海外との連携状況

- －国別の連携状況（共同研究、情報交換、人材交流等）
- －連携の予算・人員規模
- －どの分野での連携か（施設・設備、装置開発、人材育成、その他特殊分野）

- ・人材育成
 - －具体的な人材育成の取組とその予算・規模（組織として人材育成に取り組んでいるか。高校生以下を対象とした取り組みも含む。）
 - －職員の分布（人数、任期の有無、常勤・非常勤、役職・年齢、職種（研究者、技術者等））
 - －人材の需要及び人材の供給元（大学（学部・学科）、研究機関のいずれか）
 - －人材育成の種類（施設運営、加速器、分光器、エンドステーション（装置等）、各々の開発に携わる人毎）
 - －研究者、技術者個人の研究時間（十分な時間が得られているか）

- ・施設の管理方法（放射線管理、利用に係る手続き、ドミトリー等の整備状況）

- ・今後の施設・設備の整備の在り方、産学官連携の在り方や拠点化・プラットフォーム形成の在り方等についてどう考えているか。

- ・その他運用上の課題（運転時間の増による電気代増加による運転スケジュールの調整など）